

危険物発見箇所周辺環境調査(平成16年度)について

<平塚版 平成16年10月15日>

発行・編集 環境省環境保健部環境リスク評価室、神奈川県防災局災害対策課、平塚市防災安全部防災課

環境省では、相模海軍工廠化学実験部跡地の環境調査を平成15年度から行っており、平成16年度の第一次調査を平成16年8月から9月にかけて実施しました。

その結果、分析した全ての環境大気・土壌からは毒ガス成分は検出されませんでした。
地下水調査につきましては、あか剤関連物質以外の毒ガス成分は検出されませんでした。
物理探査につきましては、現場での測定を終了しましたので、別途行っている「物理探査の結果を評価する方法を確立するための実証実験」の結果が出しだい、その結果を用いて不審物の存在の可能性を評価し、不審物確認調査を行います。

1. 地下水調査

ジフェニルアルシリン酸等のあか剤関連物質については、旧相模海軍工廠化学実験部跡地周辺に存在する井戸200ヵ所程度の井戸水を調査し、7ヵ所から何らかの有機ヒ素化合物が検出されました(別紙参照)。同定及び定量分析の結果、7ヵ所のうち1ヵ所からジフェニルアルシリン酸が0.024mg/L 検出され、3ヵ所からモノフェニルアルシリン酸が0.004~0.189mg/L 検出され、7ヵ所全てからフェニルメチルアルシリン酸が0.001~0.063mg/L 検出されました(濃度は全てヒ素換算値)。現在、要調査地域内(別紙参照)においてモニタリング調査等を行っているところです。

今回の調査では、あか剤関連物質以外のマスタードやルイサイト関連物質の毒ガス関連物質が地下水に含まれていないか、要調査地域内の5ヵ所で調査しました。

結果:全ての検体について、あか剤関連物質以外の毒ガス関連物質である、硫黄マスタード、ルイサイト、2-クロロビニル亜アルシリン酸は検出されませんでした。

2. 環境大気調査

対象地全域(62ヵ所)で、大気中に毒ガス関連物質が含まれていないか調査しました。

結果:全ての検体について、毒ガス関連物質(硫黄マスタード、ルイサイト、ホスゲン、シアン化水素)は検出されませんでした。

3. 物理探査

裸地全域で、物理探査(レーダー探査及び磁気探査)を実施し、地下数メートルまでに異物が存在しないか調査しました。

ただし、地歴等調査で旧軍の建物があつたところや過去に当時の地表面から3m以上の掘削履歴が判明しているところは除外し、植栽など物理探査の困難な場所は今回の調査の対象外としました。物理探査の面積は、合計約3,600m²でした。(調査地点は裏面参照)

結果:現場での測定を終了しましたので、別途行っている「物理探査の結果を評価する方法を確立するための実証実験」の結果が出しだい、その結果を用いて不審物の存在の可能性を評価し、不審物確認調査を行います。

ご質問・ご相談は、下記窓口にご連絡ください。
環境省環境保健部環境リスク評価室 03-3581-3351

(裏面に続く)

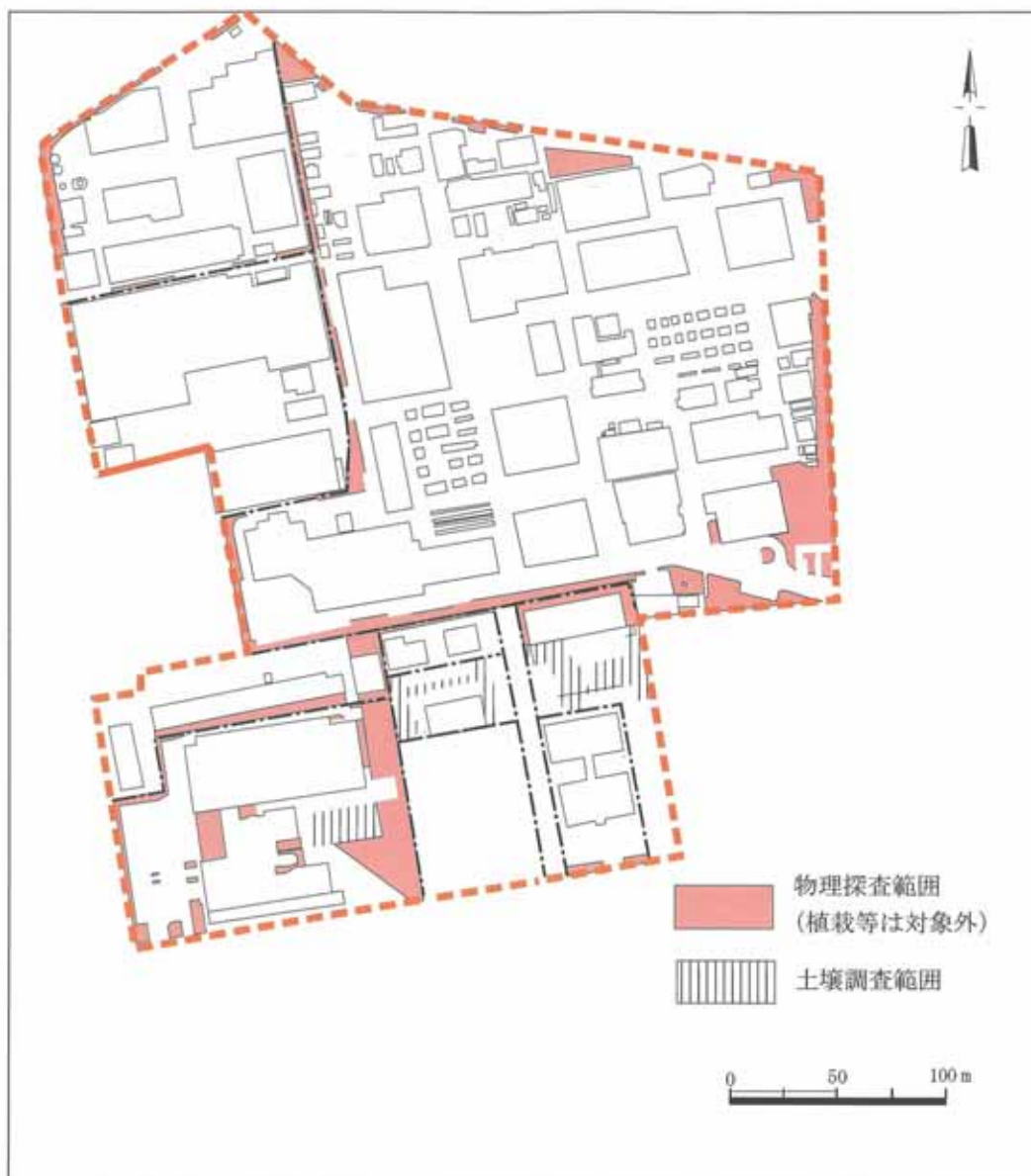
4. 土壌調査

平成15年度に物理探査を行った場所で、表層の土壌(地表面から50cm程度まで)に毒ガス関連物質が含まれていないか調査を行いました。調査地点は、平塚市美術館6カ所、平塚市駐車場5カ所、神奈川県合同庁舎別館駐車場8カ所です。(対象地点は下記参照)

ただし、深さ1m以上の土壌の入れ替えや掘削等の情報がある区域は除外しました。

結果:含有量および溶出量どちらも全ての検体について、毒ガス関連物質である、硫黄マスタード、ルイサイト、2-クロロビニル亜アルソン酸、あか剤関連物質(ジフェニルクロロアルシン、ジフェニルシアノアルシン、ビス(ジフェニルアルシン)オキシド、ジフェニルアルシン酸、フェニルアルソン酸)は検出されませんでした。

< 物理探査及び土壌調査地点図 >



注1) 環境大気調査は全域を対象としています。

注2) 物理探査、土壌調査等の調査は裸地を対象に行っています。舗装されていたり建物が建っているところについては、その状態が保たれている限り直接被害が生ずることは考えられないため、今回は調査していません。